



平成 27 年 9 月 1 日
独立行政法人国立科学博物館

AIBO、8 ビットパソコン、レーザディスクプレーヤ、タカチアスターゼなど 25 件の「重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）」の登録と登録証授与式について

独立行政法人国立科学博物館（館長：林 良博）は、平成 20 年度から重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）の登録を実施しています（別紙）。

平成 27 年度は、あらたに、AIBO、8 ビットパソコン（MZ80K・PC8001・ベーシックマスター）、レーザディスクプレーヤ、タカチアスターゼなど、25 件の重要科学技術史資料を登録することとなりました。今回の登録により合計 209 件の登録となります。

このたび、今回登録される資料の所有者をお招きして、登録証及び記念盾の授与式と、パネル展示を下記のとおり開催します。

つきましては、広報について、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

■「重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）」登録証授与式

期 日	平成 27 年 9 月 15 日（火）
会 場	国立科学博物館 日本館 2 階 講堂 東京都台東区上野公園 7-20
次 第	13:45～ 受付 14:30 開式 国立科学博物館長挨拶 重要科学技術史資料登録委員会委員長挨拶 14:45 登録証授与 15:15 閉式（閉式後、集合写真撮影／パネル展示見学）

■パネル展示

期 日 9 月 15 日（火）～10 月 4 日（日）
会 場 国立科学博物館 日本館 1 階 中央ホール
(9 月 15 日～9 月 27 日のみ一部実物資料を展示。)

※ご希望の方には、登録資料のデジタル写真を提供します。(10 月末までご請求いただけます。)

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館
産業技術史資料情報センター 担当：久保田・亀井・高江洲
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 産業技術史資料情報センター
TEL: 029-853-8394(代表) FAX: 029-853-8492 E-mail: sts2006@kahaku.go.jp
<http://sts.kahaku.go.jp/>

重要科学技術史資料 一覧

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第 00185 号		エンタテインメントロボット AIBO ERS-110 — 家庭用として初めて事業化され販売されたエンタテインメントロボット —	ソニー株式会社	1999
第 00186 号		ボトル用自動販売機 SVM-48 — 清涼飲料のヒットとともに普及した自動販売機 —	パナソニック株式会社	1968
第 00187 号		微粉炭ディーゼル機関 — 日本のディーゼル機関研究の多様性を示す証左 —	株式会社赤阪鐵工所	1939
第 00188 号		海軍航空機用塗料色別標準（色見本帳） — 日本海軍航空機用の色見本 —	日本特殊塗料株式会社	1942
第 00189 号		単純開放サイクル1軸式ガスタービン（AT900） — 非常用ガスタービンの普及に貢献 —	ヤンマー株式会社	1984
第 00190 号		肩掛型テープ録音機 PT-1 — 日本初の肩掛け型録音機 —	NHK 放送博物館	1951
第 00191 号		コンパクト・カセット式ポータブルステレオ録音機「カセット デンスケ」 TC-2850SD — 生録ブームに火をつけた録音機 —	ソニー株式会社	1973

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第 00192 号		世界初の民生用 PCM プロセッサー PCM-1 — 世界初の民生用 PCM プロセッサー —	ソニー株式 会社	1977
第 00193 号		カラーネガフィルム「フジカラー F-II 400」 — 世界初の高感度 (ASA400) カラーネガフィルム —	富士フイル ム株式会社	1976
第 00194 号		シンフォニーレーベル長唄「鞍馬山」レコード — 国産初の SP レコード —	金沢市	1909
第 00195 号	(1)  (2) 	【 国産蓄音器 】 (1) ニッポノホン 35 号 (2) ラッパ内蔵型蓄音器ユーホン 1 号 — 国産最初期の蓄音器 —	金沢市	(1)1910 (2)1911
第 00196 号		卓上型フィルモン／円板兼用再生機 — 歴史に埋没した日本の独創録音技術 —	金沢市	1937
第 00197 号		LP 録音機用カッターヘッド (型式名 : TYPE C-28-G) — 日本初のモノラル LP 用カッターヘッド —	日本コロムビ ア株式会社	1953
第 00198 号	(1)  (2)  (3) 	【 デジタル録音機とその制作レコード 】 (1) PCM・デジタル録音実験レコード (型式名 : NCB-7003/NCC-8004-N) (2) レコードマスター用 PCM/デジタル録音装置 (型式名 : DENON DN-023R) (3) PCM 録音レコード (型式名 : NCC-8501-N) — 世界初の録音系デジタル化 —	日本コロムビ ア株式会社	(1)1971 (2)1972 (3)1972

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第 00199 号		可搬型 PCM 録音機 (型式名 : DENON DN-034R) — デジタル録音の普及に貢献 —	日本コロムビア株式会社	1978
第 00200 号		音場型／音圧型録音用マイクロフォン (型式名 : B&K 社 Type 4006) — レコード制作用マイクの革新 —	日本コロムビア株式会社	1979
第 00201 号		PR-7820 (業務用 LD プレーヤ) — 世界初の産業用レーザーディスク (LD) プレーヤ —	パイオニア株式会社	1979
第 00202 号		LD-7000 (民生用 LD プレーヤ) — 世界初の半導体レーザを使用したレーザーディスク (LD) プレーヤ —	パイオニア株式会社	1983
第 00203 号		CLD-9000 — 世界初のレーザーディスク (LD) とコンパクトディスク (CD) の両光ディスクが再生できるコンパチブルプレーヤ —	パイオニア株式会社	1984
第 00204 号		パソコン MZ-80K — 国産初期の 8 ビット・パーソナル・コンピュータ —	シャープ株式会社	1978
第 00205 号		パーソナルコンピュータ PC-8001 — 国産初期の 8 ビット・パーソナル・コンピュータ —	日本電気株式会社	1979
第 00206 号		ベーシックマスター MB-6890 — 国産初期の 8 ビット・パーソナル・コンピュータ —	株式会社日立製作所	1980
第 00207 号		イオン交換樹脂の工業生産に関わる諸資料 — 日本初のイオン交換樹脂関連資料 —	山田化学工業株式会社	1939～ 1946 頃

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第 00208 号		タカジアスターゼ — 日本発の消化酵素・漱石も愛用した胃腸薬 —	第一三共株式会社	1909
第 00209 号	 月報  実験ノート  スタチンの錠剤	スタチンおよびその発見に関する月報と実験ノート — 世界の成人病患者の救世主 —	東京農工大学 科学博物館	1971～ 1976, 1978



1. 重要科学技術史資料（未来技術遺産※）の登録制度とは

国立科学博物館では、「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」及び「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存と活用を図るために、関係する工業会及び学協会と協力して、調査研究活動を従来から行ってまいりました。これらの資料は、近年の科学技術の急速な発展、技術革新や産業構造の変化の中でその本来の意義が見失われ、急速に失われようとしています。国立科学博物館では、このような資料の保存を図るとともに、科学技術を担ってきた先人たちの経験を次世代に継承していくことを目的として、重要科学技術史資料の登録制度を平成20年度より実施しており、これまでに184件の資料を登録し、今回新たに25件の資料を登録いたします。

※未来技術遺産（愛称）：過去の科学技術史資料のうち未来へ引き継ぐべき遺産として名づけた愛称。

2. 登録制度の内容

- 台帳への登録及び登録証等の交付：国立科学博物館の『重要科学技術史資料登録台帳』に登録するとともに、所有者に国立科学博物館から重要科学技術史資料として登録されたことを示す登録証及び記念盾（別紙1参照）を交付します。
- 現状変更等の連絡：所有者から登録資料の移動・破損等の状況等について連絡を受け、資料の状況についてできる限り記録します。また、国立科学博物館から定期的に現状の確認を行うことなどによって、できるだけ多くの資料の散逸を防ぎます。
- 情報の公開：登録台帳を作成するとともに、国立科学博物館ホームページ上において、重要科学技術史資料に関する情報の公開を行います。（個人情報等は除く。）
- パネル展示の実施：重要科学技術史資料を紹介するパネル展示を行います。

3. 登録制度の特徴

国立科学博物館が行う重要科学技術史資料登録制度は、日本の全科学技術を対象とし、資料の保存とその活用を図ることを目的としています。

また、この活動は、国立科学博物館で平成9年以来行ってきた産業技術史資料の所在調査や、経常的に行われている科学技術史・産業技術史研究の成果を基盤として行われています。

さらに、重要科学技術史資料に登録されると、資料の保管場所等が変更されるつど、所有者は国立科学博物館にご連絡いただく一方、国立科学博物館では定期的に資料の状況を確認するなどのアフターケアを行います。

【参考】

1. 登録までの流れ（別紙2及び3参照）

今回の重要科学技術史資料の登録は、国立科学博物館で行っている産業技術史資料の所在調査によって得られた情報（平成26年度末現在、電子機械・化学工業など192分野、13,948件）の中から、具体的にテープレコーダー・レコード・パソコン技術といった12の個別の技術分野を選定して、技術の歴史的な経緯を整理する系統化研究を行ったうえで、登録候補として全25件を選出しました。その後、外部有識者によって構成される重要科学技術史資料登録委員会（委員長：末松安晴）における審議結果を踏まえて、最終決定に至りました。

2. 登録制度の今後について

国立科学博物館では、今後も引き続いて、コークス技術・石油化学技術・農業機械技術等の個別の技術分野を対象に、継続して重要科学技術史資料の登録を行います。また、すでに登録された重要科学技術史資料については、資料の状況を定期的に確認いたします。

こうした活動を通じて、未来に残すべき科学技術史資料の保存をはかるとともに、広く一般に対して科学技術史資料についての理解を促進していきます。

3. 国立科学博物館 産業技術史資料情報センターとは

産業技術史資料情報センターは、技術分野ごとに関連する工業会と協力して、「産業技術史資料の所在調査」を行っています。また、産業技術と社会・経済・文化とのかかわりを研究する「技術の系統化研究」などの調査研究を行っています。

さらに産業技術史資料情報センターでは、重要科学技術史資料の登録制度を運営し、『重要科学技術史資料台帳』を作成するとともに、継続して登録された重要科学技術史資料のアフターケアを行います。

その他にも、産業技術系博物館と連携した活動や、産業技術史をテーマにした展示や学習支援活動を行っています。



重要科学技術史資料登録証

見本(表)

重要科学技術史資料
Essential Historical Material for Science and Technology

登録証
Certificate of Registration

名 称 特別高圧油入変圧器 (13.2kV、100kVA)

登録年月日 平成20年10月9日

登録番号 第00001号

重要科学技術史資料として登録されたことを証します。

国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

表

見本(裏)

所有者の氏名または名称	株式会社 東芝 執行役常務 電力流通・産業システム社長 北村秀夫
所有者の住所	東京都港区芝浦一丁目1番1号
資料の所在地	神奈川県横浜市鶴見区江ヶ崎町4番1号 東京電力株式会社 電気の史料館
受付または再交付の年月日	平成20年10月9日

変更等年月日	変更等内容

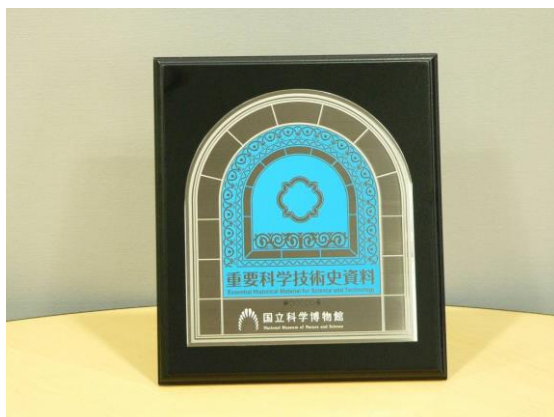
備 考

次の場合には、この登録証を添えて届け出てください。

- 1 所有者が変わったとき。
- 2 所有者の氏名もしくは名称又は住所を変更したとき。
- 3 資料に破損・滅失、変更などがあった場合。

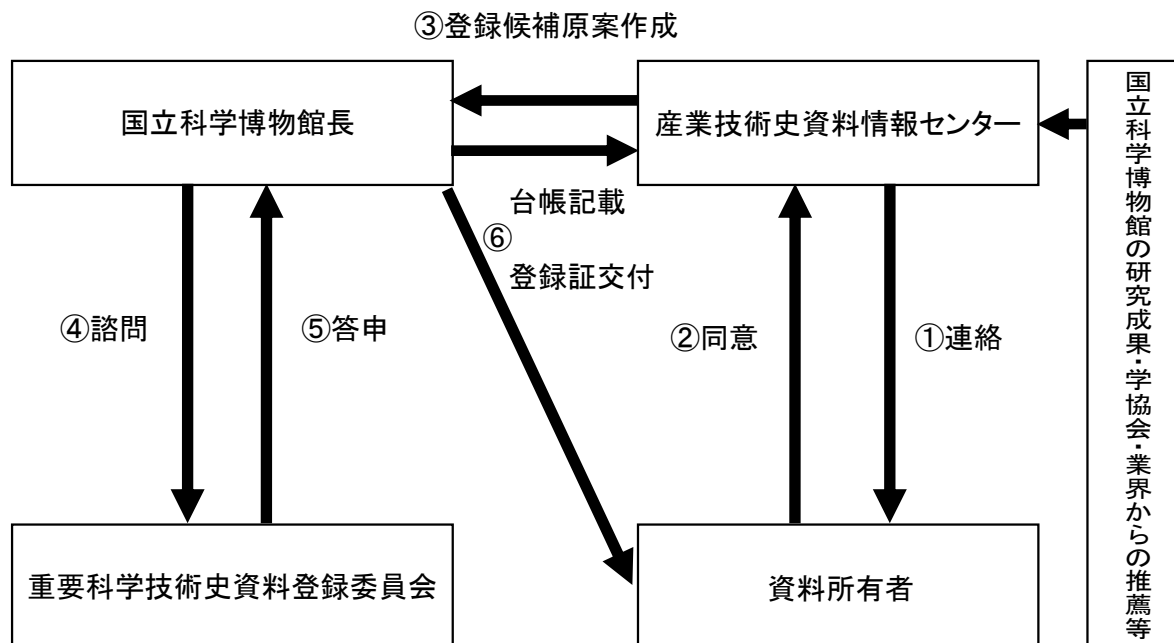
裏

記念盾





登録までの流れ



重要科学技術史資料登録委員会委員

大島まり	東京大学大学院情報学環／東京大学生産技術研究所	教授
小川明	一般社団法人 共同通信社	客員論説委員
川村恒明	公益財団法人 神奈川芸術文化財団	顧問
○末松安晴	公益財団法人 高柳健次郎財団	理事長
鈴木基之	東京大学	名誉教授
柘植綾夫	公益財団法人 科学技術国際交流センター	会長
寺西大三郎	一般財団法人 化学研究評価機構	顧問
橋本毅彦	東京大学大学院総合文化研究科	教授
原島文雄	東京大学	名誉教授

○：委員長

平成 27 年 5 月現在



平成 20 年 2 月 8 日
館長裁定

○重要科学技術史資料の選定基準

- 一 科学技術（産業技術を含む。以下同じ。）の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つもので、次の基準を満たすもの
 - イ 科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの
 - ロ 国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの
 - ハ 新たな科学技術分野の創造に寄与したもの
 - ニ 地域等の発展の観点から見て記念となるもの
 - ホ 試行錯誤、失敗の事例など科学技術の継承を図る上で重要な教育的価値を有すもの
- 二 国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えたもので、次の基準を満たすもの
 - イ 国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの
 - ロ 日本経済の発展と国際的地位の向上に一時代を画するような顕著な貢献のあったもの
 - ハ 社会、文化と科学技術の関わりにおいて重要な事象を示すもの

FAX 送信票

9 月 1 5 日（火）授与式出席

独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター 行

F A X 0 2 9 - 8 5 3 - 8 4 9 2

※手数料をおかけいたしますが、下記項目にご記入の上、
9 月 1 1 日（金）までに E-mail または FAX にてご送信くださいますようお願い
申し上げます。

〔授与式取材者〕

貴社名 _____

ご芳名 _____ (計 人)

E mail _____

T E L _____

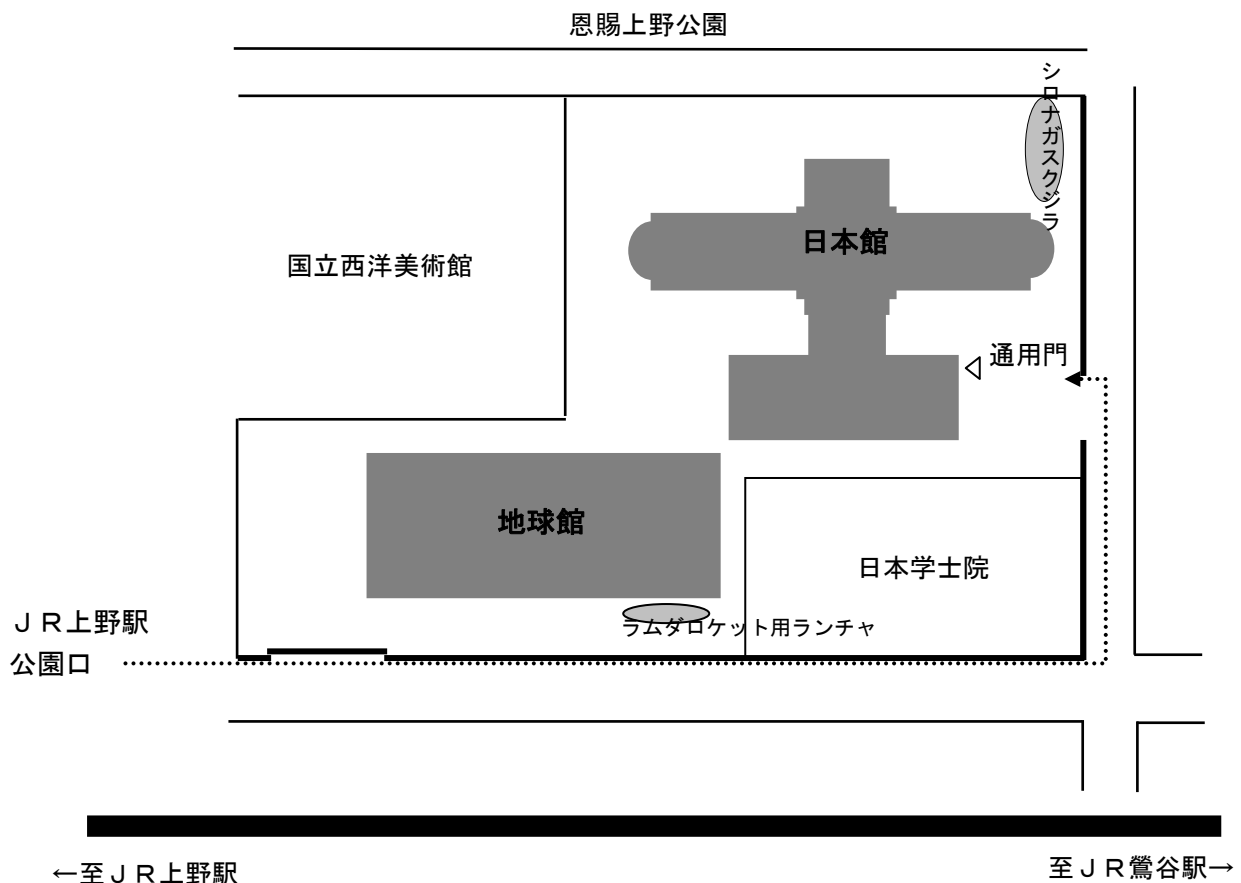
F A X _____

※今後、当センターのご案内をメール等で差し上げてもよろしいでしょうか？

☐ はい ☐ いいえ

「重要科学技術史資料」登録証授与式 案内図

- 期 日 平成 27 年 9 月 15 日 (火)
- 会 場 国立科学博物館 日本館 2 階 講堂
【東京都台東区上野公園 7-20】
- 当日電話 0 3 - 3 8 2 2 - 0 1 1 1 (大代表)
- 次 第 13:45～ 受付
14:30 開式
15:15 閉式



【国立科学博物館までのアクセス】

- J R 「上野」 駅公園口から徒歩 5 分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」 駅から徒歩 10 分
- 京成線「京成上野」 駅から徒歩 10 分
- ※駐車場の用意はございません。

家庭用として初めて事業化され販売されたエンタテインメントロボット

登録番号	第 00185 号
名称 (型式等)	エンタテインメントロボット AIBO ERS-110
所在地	東京都品川区
	ソニー歴史資料館
所有者 (管理者)	ソニー株式会社
製作者(社)	ソニー株式会社
製作年	1999年
初出年	1999年
選定理由	自律型のエンタテインメントロボットである。ロボットを、人間の生活の中に取り込んだ商品として、家庭用として初めて事業化された。4足で歩行して感情を表現し、人とコミュニケーションすることで学習・成長しながら、自らの判断で行動した。開発にあたって作られた試作機も現存しており、新たな科学技術分野の創造に寄与したものとして、重要である。
登録基準	一一ハ （新たな科学技術分野の創造に寄与したもの）

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	

清涼飲料のヒットとともに普及した自動販売機

登録番号	第 00186 号
名称 (型式等)	ボトル用自動販売機SVM-48
所在地	大阪府大東市 三洋電機株式会社
所有者 (管理者)	パナソニック株式会社 社史室
製作者(社)	三洋電機株式会社
製作年	1968年
初出年	1965年
選定理由	立てて収納されたビンをコインを入れて手で引き抜く、半自動式の水平ラック飲料販売機である。手動式であった米国製の自販機をモデルに、短時間で飲み頃に冷やす機能や霜対策を施すなど、日本向けの改良を施して発売された。ビンの収納本数は少なくなるものの、小型で移動が容易、ショーケース的な視認性を有し、機構の単純さから保守管理もしやすいなどの特徴を持ち、かつ廉価であったことから、日本コカ・コーラ社の『看板代わり』の販売ツールとして採用され、爆発的に普及した。自販機発展の一段階を示すものとして重要である。
登録基準	ーイー (科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの)

公開・非公開	非公開
写真	 
その他参考となるべき事項	

日本のディーゼル機関研究の多様性を示す証左

登録番号	第00187号
名称 (型式等)	微粉炭ディーゼル機関
所在地	静岡県焼津市 株式会社赤阪鐵工所
所有者 (管理者)	株式会社赤阪鐵工所
製作者(社)	株式会社赤阪鐵工所
製作年	1939年
初出年	1939年
選定理由	ディーゼルエンジンの発明者であるディーゼルの元々の考えは、燃料として微粉炭を用いるというものであった。その後、効率の良い液体燃料としての重油が現れたので微粉炭は廃れていったが、戦争による燃料入手難から微粉炭を燃料とする検討が始まった。本資料は川口市の国立燃料研究所の依頼で赤阪鐵工所が製作したものである。ディーゼルエンジンでの微粉炭燃料はきわめて難しい技術であり、実用化までは至らなかったが、試験データは木炭ガス機関などに引き継がれた。
登録基準	ーイー（科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	

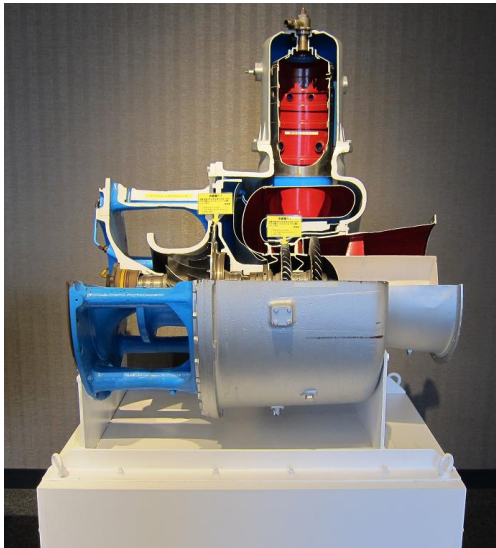
日本海軍航空機用の色見本

登録番号	第 00188 号
名称 (型式等)	海軍航空機用塗料色別標準 (色見本帳)
所在地	東京都北区
	日本特殊塗料株式会社
所有者 (管理者)	所有者：日本特殊塗料株式会社 管理者：社長室 室長
製作者(社)	海軍航空本部
製作年	1942年
初出年	1938年
選定理由	本資料は、1938（昭和13）年11月26日航本第8010号決定、1942（昭和17）年4月に航本第2943号で改正の仮規の117別冊である。日本海軍航空機に塗装された標準色54色の色見本を、戦時の物資調達の状況により仮規の色票として収録したものである。色票サイズは幅194mm上下108mm、54色中42色が現存し12色は欠損する。航空機用塗料は、紫外線や温度変化、空気摩擦などの厳しい使用環境から機体を護るもので、日本特殊塗料は1929（昭和4）年に航空機用塗料開発からスタートした。経年変化により各色票の色や艶は変化しており、使用機種や塗装部位などの記録はない。
登録基準	一ーイ （科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	

非常用ガスタービンの普及に貢献

登録番号	第00189号
名称 (型式等)	単純開放サイクル1軸式ガスタービン (AT900)
所在地	兵庫県尼崎市 ヤンマー株式会社 尼崎工場
所有者 (管理者)	ヤンマー株式会社 尼崎工場
製作者(社)	ヤンマー株式会社
製作年	1984年
初出年	1983年
選定理由	本資料は、1983（昭和58）年に開発された純国産の1軸式開放型ガスタービンAT900形機関の試作機のカットモデルである。AT900は英NPT社から技術導入して開発しつつあったAT600型と並行して独自に開発したものである。当初より非常用発電機の動力源に特化して開発したため、すべり軸受でなくころがり軸受を採用し、停電後40秒以内に給電しなければならないという条件を容易にした。また、一方の軸受の位置を変えることにより、プライミングを不要とすることにも成功した。本機関は1段遠心式圧縮機、2段軸流タービンからなり、1段遠心式圧縮機は、圧縮比8.2、断熱効率78.2%と、当時としては世界最高レベルの性能を達成した。大容量、軽量、コンパクトな発電装置として民生用ガスタービンの普及に貢献し、現在まで1000台以上が生産された。世界的に見て非常用発電機という考え方がなかった当時、それを確立したものとして意義深いものである。
登録基準	一ーロ（国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの）

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	

日本初の肩掛け型録音機

登録番号	第 00190 号
名称 (型式等)	肩掛型テープ録音機 PT-1
所在地	東京都港区
	NHK放送博物館
所有者 (管理者)	NHK放送博物館
製作者(社)	東京通信工業株式会社（現：ソニー株式会社）
製作年	1951年
初出年	1951年
選定理由	日本で初めて製造された肩掛け式のテープレコーダーである。重さ8kg、高さ17cm×幅35cm×奥行17cmで、移動用の録音機として街頭インタビューで活躍した。手巻き式のスプリング・モーターで駆動し、増幅部は真空管を採用している。録音だけに特化した録再ヘッドのみの1ヘッド方式という、簡素であるものの信頼性を重視した仕様であった。ラジオ番組をモデルにした漫画『デンスケ』にちなみ「デンスケ」の愛称で呼称され親しまれた。
登録基準	二一ハ（社会、文化と科学技術の関わりにおいて重要な事象を示すもの）

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	

生録ブームに火をつけた録音機

登録番号	第 00191 号
名称 (型式等)	コンパクト・カセット式ポータブルステレオ録音機「カセット デンスケ」 TC-2850SD
所在地	東京都品川区 ソニー歴史資料館
所有者 (管理者)	ソニー株式会社
製作者(社)	ソニー株式会社
製作年	1973年
初出年	1973年
選定理由	ステレオ録音が可能な家庭用ポータブル型テープレコーダーである。メカニズムは当時の標準的な形状のものを採用し、小型化に特化するよりも、高い録音品質を重視して開発された。歪のない録音が可能な減衰器（アッテネーター）付きマイク、ドルビー・ノイズリダクション等を採用して、据え置きデッキに劣らない高音質を実現した。52,800円で発売され、SLや野鳥の声の録音など「生録ブーム」を巻き起こすほどにヒットした。新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたものとして重要である。
登録基準	二ーイ（国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの）

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	

世界初の民生用PCMプロセッサー

登録番号	第 00192 号
名称 (型式等)	世界初の民生用PCMプロセッサー PCM-1
所在地	東京都品川区
	ソニー歴史資料館
所有者 (管理者)	ソニー株式会社
製作者(社)	ソニー株式会社
製作年	1977年
初出年	1977年
選定理由	世界で初めて開発された民生用のPCMプロセッサーである。PCMプロセッサーとは、ビデオデッキと組み合わせて、デジタル録音・再生を可能にするオーディオ装置で、アナログ情報に比べはるかに大量のデジタル情報を処理するため、映像信号を扱うVTR機器が応用された。本機は、家庭用VTR「ベータマックス」と接続して使用され、世界で初めて、夢であったデジタル録音を家庭で実現したことから、日本の科学技術発展の独自性を示すものとして貴重である。
登録基準	一ーロ（国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの）

公開・非公開	公開
写真 	
その他参考となるべき事項	

世界初の高感度(ASA400)カラーネガフィルム

登録番号	第 00193 号
名称 (型式等)	カラーネガフィルム「フジカラー F-II 400」
所在地	東京都港区
	富士フイルム株式会社 フジフイルムスクエア 写真歴史博物館
所有者 (管理者)	富士フイルム株式会社
製作者(社)	富士写真フイルム株式会社 (現：富士フイルム株式会社)
製作年	1976年
初出年	1976年
選定理由	本資料は、1976（昭和51）年9月発表、10月に発売された世界初の高感度（ASA400）カラーネガフィルムである。CLG(集中核型粒子)技術と呼ばれ、センサーであるハロゲン化銀粒子の新型形成技術と、ICL(画像制御層)技術と呼ばれ、色素像形成時のにじみコントロール技術の2つの新技術の開発により、それまでのカラーネガフィルムに対し、感度を4倍に引き上げることに成功した画期的新製品である。このフィルムの登場により、ストロボが無ければ撮影できなかった暗い場所の撮影も可能になり、シャッタースピードを4倍も速くして手ブレを解消出来るなど、気軽に美しいカラー写真を写すことができるようになり、写真撮影領域を拡大した。これまでの欧米製品への追随から日本が独自製品を開発するきっかけとなり、これを契機に日本のフィルムメーカーがフィルム開発において世界のトップランナーに躍り出ることになった。
登録基準	二ーイ （国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの）

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	

国産初のSPLレコード

登録番号	第 00194 号
名称 (型式等)	シンフォニーレーベル長唄「鞍馬山」レコード
所在地	石川県金沢市 金沢蓄音器館
所有者 (管理者)	金沢市
製作者(社)	日米蓄音器製造株式会社
製作年	1909年
初出年	1909年
選定理由	1909（明治42）年、日米蓄音器製造が、日本で最初の直径10インチの片面盤（平円盤）を製造し、日本蓄音器商会（現：日本コロムビア）が、「シンフォニー」等のレーベルで販売を開始した。本資料はその中の一枚である長唄「鞍馬山」のレコードで、販売後、海賊盤が横行したため大正初期になって「ニッポノホン」レーベルの正規の両面盤として再度販売された。
登録基準	二ーイ（国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの）

公開・非公開	非公開
写 真	 
その他参考となるべき事項	

国産最初期の蓄音器

登録番号	第 00195 号
名称 (型式等)	【 国産蓄音器 】 (1) ニッポノホン35号 (2) ラッパ内蔵型蓄音器ユーホン1号
所在地	石川県金沢市 金沢蓄音器館
所有者 (管理者)	金沢市
製作者(社)	(1) 日本蓄音器商会 (現：日本コロムビア株式会社) (2) 日本蓄音器商会 (現：日本コロムビア株式会社)
製作年	(1) 1910年 (2) 1911年
初出年	(1) 1910年 (2) 1911年
選定理由	1909（明治42）年の国産円盤レコード発売の翌年と翌々年に開発された蓄音器2種である。 (1) ニッポノホン35号は1910（明治43）年に発売された国産初の蓄音器で、日本蓄音器商会（現：日本コロムビア）が20号、25号、50号などと共に開発した。本資料は以下のような特徴を備えていた。 ①露出部を多くして注油や掃除を専門の機械工にゆだねる必要をなくした。 ②回転盤を鋳鉄から鋼鉄製に替え、回転を滑らかにした。 ③振動板を取り外し自在にし、曲に応じて適切なものを使えるようにした。 現存するものはほとんどがラッパを取り替える等の改変が加えられているが、本資料はオリジナルのもので貴重である。国産初の蓄音器としてよく知られており、多くの人に愛用され、その優れた再生音は今だに人々を魅了している。 (2) ユーホン1号は1911（明治44）年に発売された蓄音器である。音響ホーンは箱に収められておりコンパクトであった反面、ホーンが小さいため外部ラッパ付蓄音器よりも、低音が出にくく音量は小さかった。コンパクトにまとめた形状は女性にも調度品として好まれた。本資料の同型機を宮沢賢治が愛用したと伝えられている。
登録基準	二ーイ （国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの）

公開・非公開	公開
写真	(1)  (2) 
その他参考となるべき事項	

歴史に埋没した日本の独創録音技術

登録番号	第 00196 号
名称 (型式等)	卓上型フィルモン／円板兼用再生機
所在地	石川県金沢市
	金沢蓄音器館
所有者 (管理者)	金沢市
製作者(社)	日本フィルモン株式会社
製作年	1937年
初出年	1937年
選定理由	長時間録音レコードで8分しか録音できなかった時代に、36分の録音を可能にした日本の独創となる画期的な技術である。1930年代、清元、長唄、落語他の人気の名手達の登場により、30分以上の記録時間が熱望されていた。当時の記録時間は長時間盤で8分、通常SP盤で5分弱であり、溝を長くしたり、記録密度を上げるための画期的な方法の登場が望まれた。本機は、全長13m幅35mmのフィルムを小さく23回巻いてエンドレス化し、そのフィルム上に、らせん状に100周分の溝を記録し、36分の記録再生を可能にした。
登録基準	ーイー (科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの)

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	

日本初のモノラルLP用カッターヘッド

登録番号	第 00197 号
名称 (型式等)	LP録音機用カッターヘッド（型式名： TYPE C-28-G ）
所在地	東京都港区
	日本コロムビア株式会社
所有者 (管理者)	日本コロムビア株式会社
製作者(社)	日本コロムビア株式会社
製作年	1953年
初出年	1953年
選定理由	1953（昭和28）年、NHK放送技術研究所からの発注により納入された、日本初の本格的LP録音機に搭載されていたカッターヘッドである。中間媒体のテープレコーダーによる変調雑音を避けるために導入された。高域特性が良く、18kHzまで記録可能であったが、モノラル仕様のものしか開発されず、ステレオ録音のLP盤が普及するまでの一時期のみで使用された。編集ができないというハンディはあったが、それまでの中間媒体を使ったものに比べて格段に音質が良かったことが、編集が可能で変調雑音を生じない中間媒体の開発への要求を高め、デジタル録音の開発につながった。
登録基準	ーイー（科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	

世界初の録音系デジタル化

登録番号	第 00198 号
名称 (型式等)	【 デジタル録音機とその制作レコード 】 (1)PCM・デジタル録音実験レコード (型式名：NCB-7003/NCC-8004-N) (2)レコードマスター用PCM/デジタル録音装置 (型式名：DENON DN-023R) (3)PCM録音レコード (型式名：NCC-8501-N)
所在地	(1)(3) 東京都港区 (2) 東京都大田区 日本コロムビア株式会社
所有者 (管理者)	日本コロムビア株式会社
製作者(社)	(1) 日本コロムビア株式会社 (2) 日本コロムビア株式会社 (3) 日本コロムビア株式会社
製作年	(1) 1971年 (2) 1972年 (3) 1972年
初出年	(1) 1971年 (2) 1972年 (3) 1972年
選定理由	デジタル録音に関する初期の資料群で、以下の3種類から成る。 (1) NHK放送技術研究所が試作した世界最初のPCM/デジタル録音機により、日本コロムビアが制作したレコード2種、「サムシング」と「打！-ツトム・ヤマシタの世界-」である。高い評価を受けると共に、実用的なPCM/デジタル録音機の登場を望む声が高まった。 (2) 日本コロムビアとNHK放送技術研究所の共同開発による、世界初の本格的レコードマスター用PCM/デジタル録音機である。4ヘッドVTRをデータ記録機として採用し、最大8チャンネルまでの録音が可能で、チャンネル数を減らしてデータ信頼性を向上させることもできた。レコード制作に必須の手ぎり編集、レコードカッティング用アドバンス信号の再生、広帯域カッティング用のハーフスピード再生などが可能であった。1972（昭和47）年4月より録音現場での運用を開始し、1980（昭和55）年にモントルーレコード大賞名誉技術賞を受賞している。 (3) 上記(2)により制作されたレコードである。スメタナ弦楽四重奏団によるモーツァルトの弦楽四重奏曲「狩」他の録音で、後に名盤として長年親しまれた盤である。
登録基準	一ーロ (国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの)

公開・非公開	非公開
写真	(1)  1.「サムシング」  2.「打！-ツトム・ヤマシタの世界-」 (2)  (3) 
その他参考となるべき事項	

デジタル録音の普及に貢献

登録番号	第 00199 号
名称 (型式等)	可搬型PCM録音機 (型式名 : DENON DN-034R)
所在地	東京都大田区 日本コロムビア株式会社
所有者 (管理者)	日本コロムビア株式会社
製作者(社)	日本コロムビア株式会社
製作年	1978年
初出年	1978年
選定理由	CD時代に向けて整備したデジタル・オーディオ制作システムの録音部である。可搬型PCM録音機は、ランダムアクセス編集システム、デジタルマスタリング/ミキシング調整卓と組み合わせて3機器から構成された。本機は車載用に作ったもので、1970年代後半にニューヨークに運ばれ、米国初の商業的デジタル録音としてジャズの8トラックのマルチトラック録音に使用され、米の専門誌でも高く評価された。現存しているのは本機のみであるが、デジタル録音、CDの世界を拓いたものとして記念碑的なものである。
登録基準	一ーロ (国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの)

公開・非公開	非公開
写真	  
その他参考となるべき事項	

レコード制作用マイクの革新

登録番号	第 00200 号
名称 (型式等)	音場型／音圧型録音用マイクロフォン (型式名：B&K社 Type 4006)
所在地	東京都港区 日本コロムビア株式会社
所有者 (管理者)	日本コロムビア株式会社
製作者(社)	ブリュエル&ケアー社
製作年	1979年
初出年	1979年
選定理由	マイクには、楽器近くの直接音の収音に適する音場型と、音源から遠い所や残響音が大きい所での間接音の収音に適する音圧型がある。日本コロムビアとデンマーク「ブリュエル&ケアー」社は、間接音を重視した録音用マイクの共同検討を開始し、1970年代末に試作して録音現場でのテストを行った。本資料は、測定用のマイクを録音用に改良し、かつNCで注意深く削り出したキャップをマイクの先端に被せることにより、音場型、音圧型の双方に対応できるようにしたものである。音場型は、通常のマイクと同様、正面方向で平坦な特性が得られ、直接音の録音に適した高品質マイクで、音圧型は、正面方向で高音域が上昇するが、残響音が平坦に収音できる画期的な録音用マイクであった。それまで収音の世界では、音場型マイクが主に用いられ、本来の名演奏会場の持つ残響音とは異なるぼやけた残響音が収音されてきたが、この音圧型マイクの導入により、名演奏会場の魅力的な残響音が収音できるようになった。導入後約30年以上を経た今日でも、この音圧型マイクは最高評価を受けている。
登録基準	ーイー （科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	非公開
写真	音圧型キャップ   音圧型キャップ 音場型キャップ 音場型キャップ
その他参考となるべき事項	

世界初の産業用レーザーディスク(LD)プレーヤ

登録番号	第 00201 号
名称 (型式等)	PR-7820 (業務用LDプレーヤ)
所在地	神奈川県川崎市
	パイオニア株式会社 本社
所有者 (管理者)	パイオニア株式会社
製作者(社)	パイオニア株式会社
製作年	1979年
初出年	1979年
選定理由	世界初の産業用レーザーディスク(LD)プレーヤである。産業用途に耐える安全性や信頼性を確保しつつ量産化された。北米の産業用市場に導入され、ランダムアクセス可能な高画質な動画機器として、多くの応用が試みられた。本機の開発・実用化により、レーザーの使用、光学系の設計と光学部品量産化の技術、マイクロプロセッサとソフトウェアを用いたサーボ制御技術といったLDプレーヤに必要な基本技術確立するとともに、世界をリードする光ディスク技術の開発につながった。
登録基準	ニーイ (国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの)

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	

世界初の半導体レーザを使用したレーザディスク(LD)プレーヤ

登録番号	第 00202 号
名称 (型式等)	LD-7000 (民生用LDプレーヤ)
所在地	神奈川県川崎市
	パイオニア株式会社 本社
所有者 (管理者)	パイオニア株式会社
製作者(社)	パイオニア株式会社
製作年	1983年
初出年	1983年
選定理由	世界初の半導体レーザを使用した民生用レーザディスク (LD) プレーヤである。これ以前のLDプレーヤが用いていたHe-Neガスレーザに比べ、当時台頭してきたコンパクトディスク (CD) プレーヤと同じ半導体レーザを用いることにより、小型化・安定化・低コスト化を実現した。半導体レーザの波長は780nmとHe-Neレーザの632nmに対して長く、しかも幅広い分布をもっていることや、LDの信号がアナログで記録されていてピックアップ (PU) で検出する再生信号の質に敏感であることなど多くの技術的問題があったが、本機での技術開発とノウハウの蓄積により、LDプレーヤの本格的な普及が実現した。
登録基準	二ーイ (国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの)

公開・非公開	非公開
写 真	
その他参考となるべき事項	

世界初のレーザーディスク(LD)とコンパクトディスク(CD)の両光ディスクが再生できるコンパチブルプレーヤ

登録番号	第 00203 号
名称 (型式等)	CLD-9000
所在地	神奈川県川崎市
	パイオニア株式会社 本社
所有者 (管理者)	パイオニア株式会社
製作者(社)	パイオニア株式会社
製作年	1984年
初出年	1984年
選定理由	世界初のLD/CDコンパチブルプレーヤである。当時普及しつつあったコンパクトディスク (CD) とのコンパチビリティ (互換性) を実現する本機の導入により、今日の光ディスクでは常識ともなっているプレーヤ側で互換性を確保していくことが実現された。以降、ユーザが蓄積してきたソフトは新しいメディアになっても使用できるという考え方は、デジタル・バーサタイル・ディスク (DVD) やブルーレイ・ディスク (BD) でも維持され、光ディスク普及の一因となった。
登録基準	二ーイ (国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの)

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	

国産初期の8ビット・パーソナル・コンピュータ

登録番号	第 00204 号
名称 (型式等)	パソコン MZ-80K
所在地	奈良県天理市
	シャープミュージアム
所有者 (管理者)	シャープ株式会社
製作者(社)	シャープ株式会社
製作年	1978年
初出年	1978年
選定理由	国産初期の代表的な8ビット・パーソナル・コンピュータである。CPUにZ80、角型スイッチをマトリクス状に配列したキーボード、セミグラフィック表示が可能な10型CRTディスプレイ、データ記録用のテープレコーダを一体の構造としたオールインワン設計のセミキットで提供された。基本ソフトであるBASICインタプリタをROMに搭載せず、カセットテープからRAMに記憶させる「クリーンコンピュータ」方式を採用し、サードパーティーのOSや言語も利用可能としていた。高い開発の自由度や手頃な価格（198,000円）からソフトウェアが多数提供され、その後のパソコンの発展につながった。
登録基準	ニーイ（国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの）

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	

国産初期の8ビット・パーソナル・コンピュータ

登録番号	第 00205 号
名称 (型式等)	パーソナルコンピュータ PC-8001
所在地	東京都千代田区 NECパーソナルコンピュータ株式会社
所有者 (管理者)	日本電気株式会社
製作者(社)	日本電気株式会社
製作年	1979年
初出年	1979年
選定理由	国産初期の代表的な8ビット・パーソナル・コンピュータである。CPUにZ80互換の μ PD780C、基本ソフトにマイクロソフト社製のN-BASICをROMで搭載し、マイクロソフト社方式準拠のキーボード一体型本体に、CRTディスプレイ・プリンタ・データ記録用のカセットテープレコーダ・ミニフロッピーディスク・モデムなどのI/O機器を付加できるモジュール形式のシステムであった。カラー表示やカナ文字が扱えたこと、価格が手頃（168,000円）だったことなどから、個人用途に加えてビジネスでも広く利用された。対応する市販ソフトウェアも多数発売され、その後の発展に大きな影響を与えた。
登録基準	ニーイ（国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの）

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	

国産初期の8ビット・パーソナル・コンピュータ

登録番号	第 00206 号
名称 (型式等)	ベーシックマスター MB-6890
所在地	神奈川県秦野市
	株式会社日立製作所 情報・通信システム社
所有者 (管理者)	株式会社日立製作所 情報・通信システム社
製作者(社)	株式会社日立製作所
製作年	1980年
初出年	1978年
選定理由	1978（昭和53）年に発売された日本初の8ビット・パーソナル・コンピュータ、ベーシックマスターMB-6880の発展モデルである。ベーシックマスターは、それまで基板で販売されることの多かったマイコンの時代から、手ごろな価格で完成品を利用することのできるパソコンの時代に移行する先駆けとなった。CPUには、初代に採用されたモトローラ6800系の完成型とも言われるMC6809が用いられ、OSとしてBASICインタプリタだけでなくOS-9 Level11が動作可能であった。標準でひらがなの表示が可能、データ記憶用のカセットテープレコーダ、FDDなどが接続でき、その後のパソコンの発展につながった。
登録基準	ニーイ（国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの）

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	

日本初のイオン交換樹脂関連資料

登録番号	第 00207 号
名称 (型式等)	イオン交換樹脂の工業生産に関わる諸資料
所在地	京都府京都市 山田化学工業株式会社
所有者 (管理者)	山田化学工業株式会社
製作者(社)	山田化学研究所（現：山田化学工業株式会社） 他
製作年	1939年頃～1946年頃
初出年	1939年頃～1946年頃
選定理由	日本初となる、イオン交換樹脂の工業的生産に関する資料である。イオン交換樹脂の工業的生産は、京都大学教授小田良平の指導の下、1944（昭和19）年4月頃に山田化学研究所により始められた。それに先立ち同研究所の山田正五郎が、小田の下で行った研究の論文原稿や論文別刷、海軍におけるイオン交換に関する研究結果などを綴った書類やイオン交換樹脂製品に関する書類や手紙、純水製造装置のカタログなどである。当時の研究の発展過程、生産技術のレベルや、合成樹脂の利用状況を知る上で、まとまった資料として残されているため、貴重である。
登録基準	一ーイ （科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	非公開
写 真	  発表論文の原稿や海外論文の書き写し  オルガチット(イオン交換樹脂)式純水製造装置のカタログ イオン交換樹脂関連諸資料
その他参考となるべき事項	

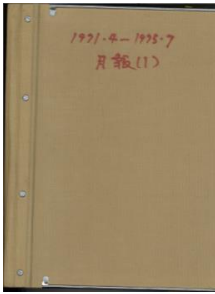
日本発の消化酵素・漱石も愛用した胃腸薬

登録番号	第 00208 号
名称 (型式等)	タカヂアスターゼ
所在地	東京都品川区 第一三共株式会社 品川研究開発センター 歴史展示室
所有者 (管理者)	第一三共株式会社 品川研究開発センター 歴史展示室
製作者(社)	三共合資会社 (現：第一三共株式会社)
製作年	1909年
初出年	1894年
選定理由	タカヂアスターゼは高峰譲吉（1854-1922）が1894（明治27）年に発見した消化酵素を胃腸消化薬に製品化したものである。それまでは抽出液を煮詰めた水あめ状のもので取扱いが不便であったが、これを粉末状で取り出すことに成功した。当時、高峰の一連の特許を元に米国のパーク・デービス社で製造され世界各国で発売されたが、高峰の意向で日本では1899（明治32）年に第一三共の前身である三共商店から発売された。夏目漱石の小説「吾輩は猫である」にも登場する薬であるが、現在も各製薬会社が発売している胃腸消化薬の成分として含有されている。
登録基準	一ーロ （国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの）

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	

世界の成人病患者の救世主

登録番号	第 00209 号
名称 (型式等)	スタチンおよびその発見に関する月報と実験ノート
所在地	東京都小金井市 東京農工大学科学博物館
所有者 (管理者)	東京農工大学科学博物館
製作者(社)	遠藤章 他
製作年	1971～1976年, 1978年
初出年	1971年
選定理由	スタチンはHMG-CoA還元酵素を阻害して強いコレステロール低下作用を示す薬物の総称である。この薬によって多くの人命が救われてきたことは周知の事実であり、世界で最も優れた薬の一つとして評価されている。このスタチン類の最初の化合物（メバスタチン：ML-236B）をアオカビの培養液から発見したのは当時三共の研究者であった遠藤章であった。本資料は、大阪大学で日本で最初に患者の治療に使ったものと同じロットの錠剤と、この新薬を発見したときの過程を記録した遠藤の月報と助手の実験ノートである。いずれも、国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すものとして重要である。
登録基準	一一ロ（国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの）

公開・非公開	非公開
写 真	 月報  実験ノート  スタチンの錠剤
その他参考となるべき事項	